

開浄水場存続へ向けて

水道問題News

第4号

発行責任者：開地区自治連合会会長 海老温信 開ヶ丘自治会会長 篠原真理子
一里丘住宅地自治会会長 河野公則 第二次水道問題対策員会委員長 木村正孝
発行年月日：2010年（平成22年）5月1日（会計報告を2面に掲載しています）



宇治市水道部が、開浄水場を休止すると決めた2007年4月1日から
今日で1127日が経過しました。

給水継続1127日

あなたのそばに、いつも地下水（ミネラルウォーター）。

地下水（井戸水）は、災害時の市民の命綱。

地域の財産、市民の資産。開浄水場を守りぬこう！

開浄水場休止差止請求裁判—控訴審スタート 5月7日（金）13:30

伊勢田駅 11:20 淀屋橋 12:23 着 大阪高裁へ

「水の惑星とよばれる地球。

漆黒の闇に覆われた宇宙の中、ぽつんと浮かぶ、青く輝く個の星に68億の人々が暮らしています。その地球を青色に染めている水のほとんどは海水であり、淡水はわずか3.5%です。しかも、そのわずかな淡水の多くは、地下水であり、また南極や北極などにも多くが氷や雪として貯えられています。河川や湖として地表を流れる量は、本当に少なく、わずか0.8%といわれています。」

「どうしてもダムなんですか？ 淀川流域委員会奮闘記（古谷桂信著）から